

70 衿の構成に関する諸問題と製図上の衿たおしについて

岐阜女子大 福本 慶子
袖木 順子

1 被服構成における製図は、従来伝習的にノートし、経験したものを一定の範囲で応用し、或は仮縫に托して補正し、確定した製図はノートされ、伝習される。こうした経験的過程はこの分野では、重要な一方法であり否定されるべきではないが、こうした方法にのみたよる限り、製図の教育が体系的に基礎的な解明をなし得ているとは考えられない。私は被服構成学自体の問題即ち製図や縫製が体形や地質の有機的關係を整理しつつ理論的に体系づけられることを目的とする。なお同時に限られた時間の学校教育が基礎的理解によって能率化され、早く創造的段階に進むことをめざしている。今回はその一端として、製図上の衿たおしの問題について共同研究を進め、一応の方法を得たので発表する。

2 方法としては一般的な理解力(新制中学卒業程度)を考慮し、理解や算出の難解な方法はさけた。反対に、日常の便利のみ尊重し、算出された結果をただ利用する方法は理解を軽んずると同時に、創造力の育成にかけると思われるのでこれをさけた。